

---

# 京都と大邱(韓国)の景観構造及び 緑地保全に関する法規制の比較研究

緑地保全・創成学講座  
緑地計画学グループ

朴 鎮昱

---

## 研究の背景

近代以降の急速な都市化の発展による利便性と生活水準の向上

景観の画一化

日韓共に景観法が施行され、地域の特性を活かした景観形成が求められている。

## 研究の目的

- 盆地地域であり、歴史的都市でもあるといった共通性を持つ京都と大邱を対象地域とし、両都市の盆地地形という特性から生み出される景観特性をどのように評価し、どのように保全しようとしてきたかを比較考察することで都市景観の保全や創成に関わる基礎的な知見を得ることを目的とする。

## 論文の構成

第1章 研究の目的及び方法

第2章 二都市の景観構造の比較・考察

第3章 緑地保全に関する法規制と景観構造との関係性の比較・考察

第4章 結論



### 京都

平安京: 794年

現在 人口: 1,470,481人

市域: 821.90km<sup>2</sup>

人口密度: 1,770人/ km<sup>2</sup>

### 大邱

慶尚道觀察使營: 1466年

慶尚道の行政中心地

現在 人口: 2,513,219人

市域: 884.46km<sup>2</sup>

人口密度: 2,842人/ km<sup>2</sup>

## 調査対象時期

- ・第1期 歴史的形態を保有していた1900年頃
- ・第2期 都市化が進行していた1970年
- ・第3期 2000年

京都市における各時期の  
景観構造の把握

## 自然構造

- ・自然骨格
- ・地形分類

## 社会構造

- ・土地利用現況の把握
- ・都市軸の把握

京都市における景観構造の  
変遷の把握大邱市における各時期の  
景観構造の把握

## 自然構造

- ・自然骨格
- ・地形分類

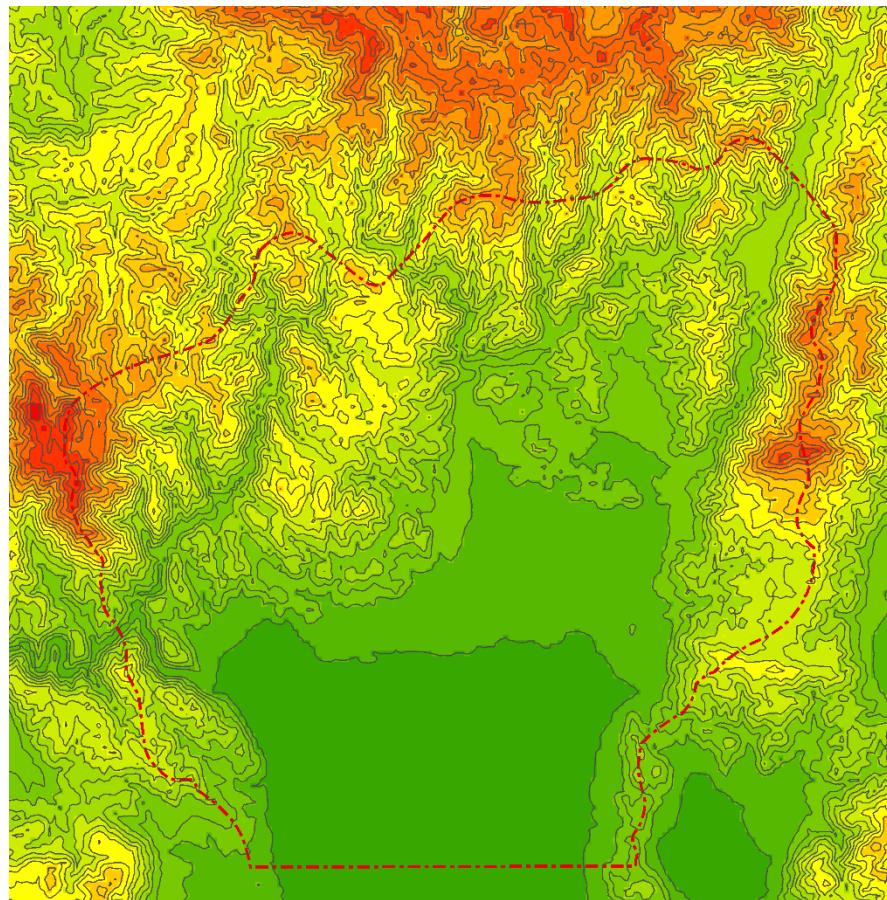
## 社会構造

- ・土地利用現況の把握
- ・都市軸の把握

大邱市における景観構造の  
変遷の把握

## 二都市の景観構造の比較

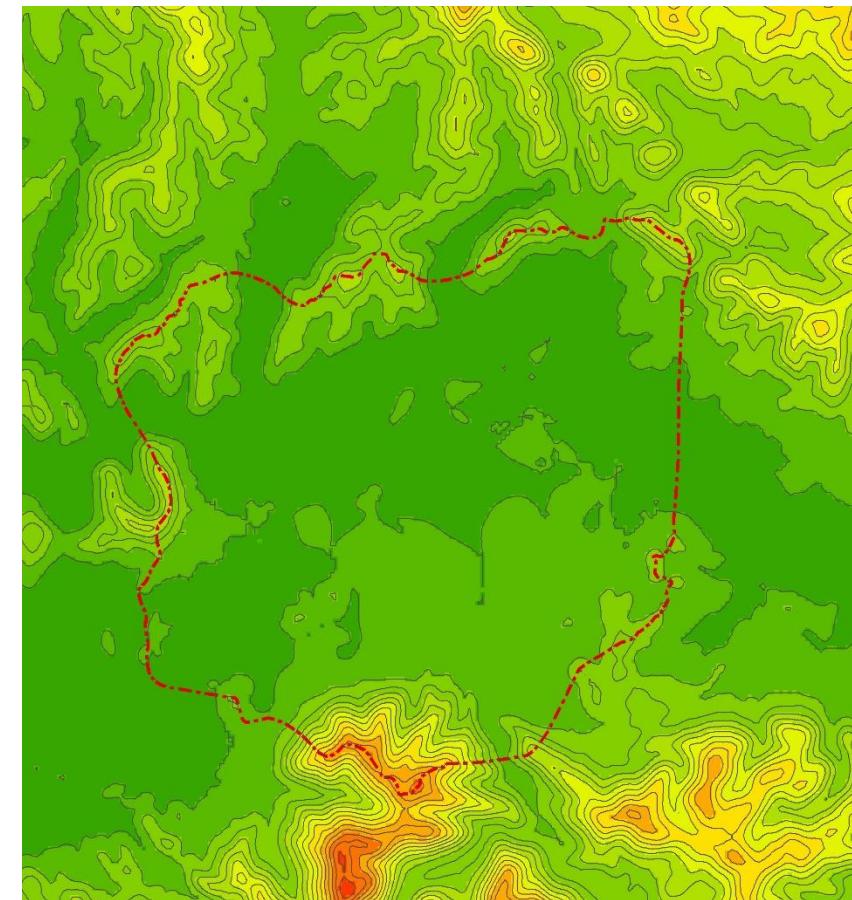
京都



景域: 25,320ha

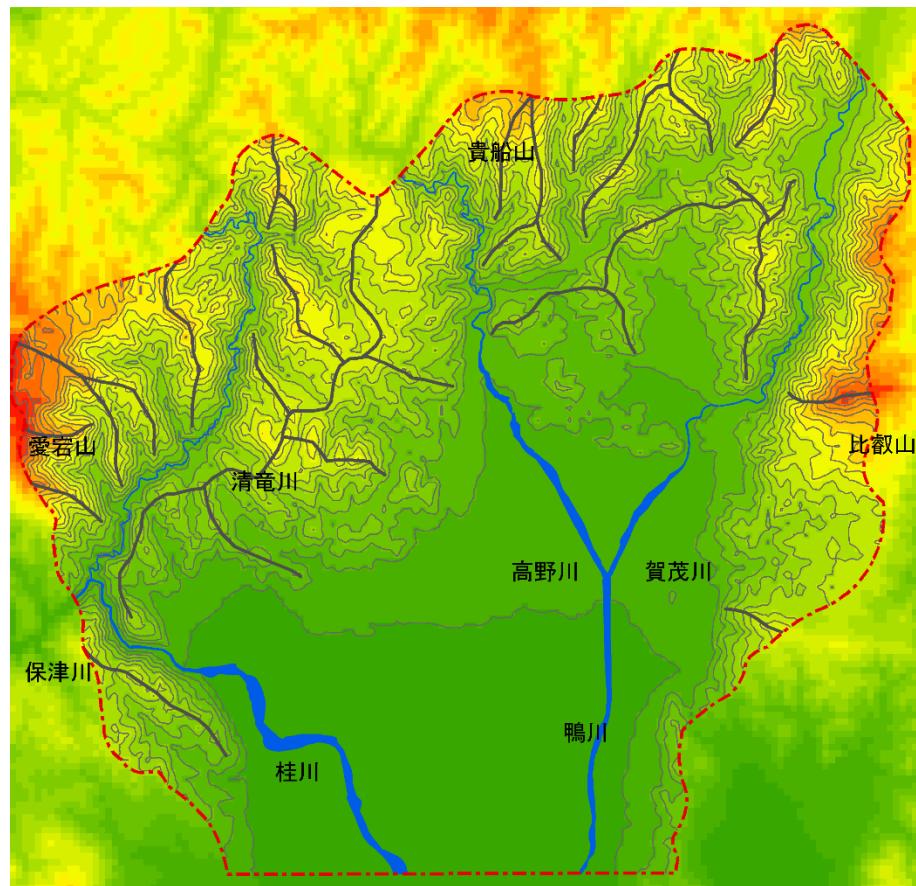


大邱



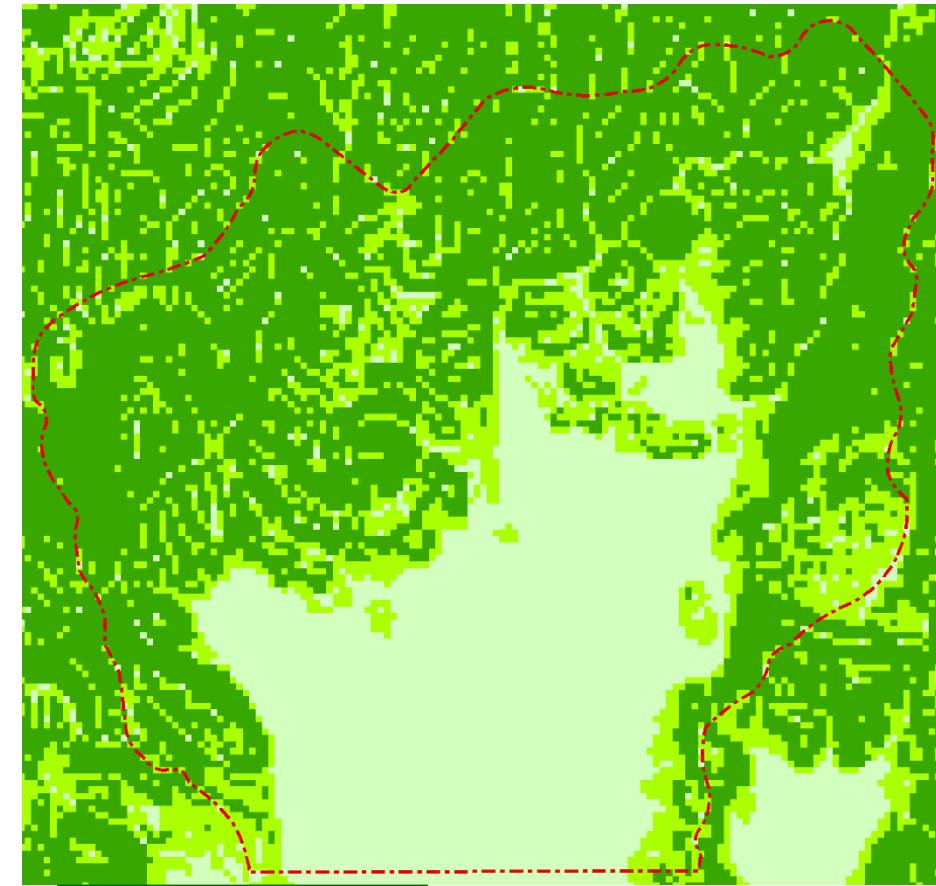
景域: 15,398ha





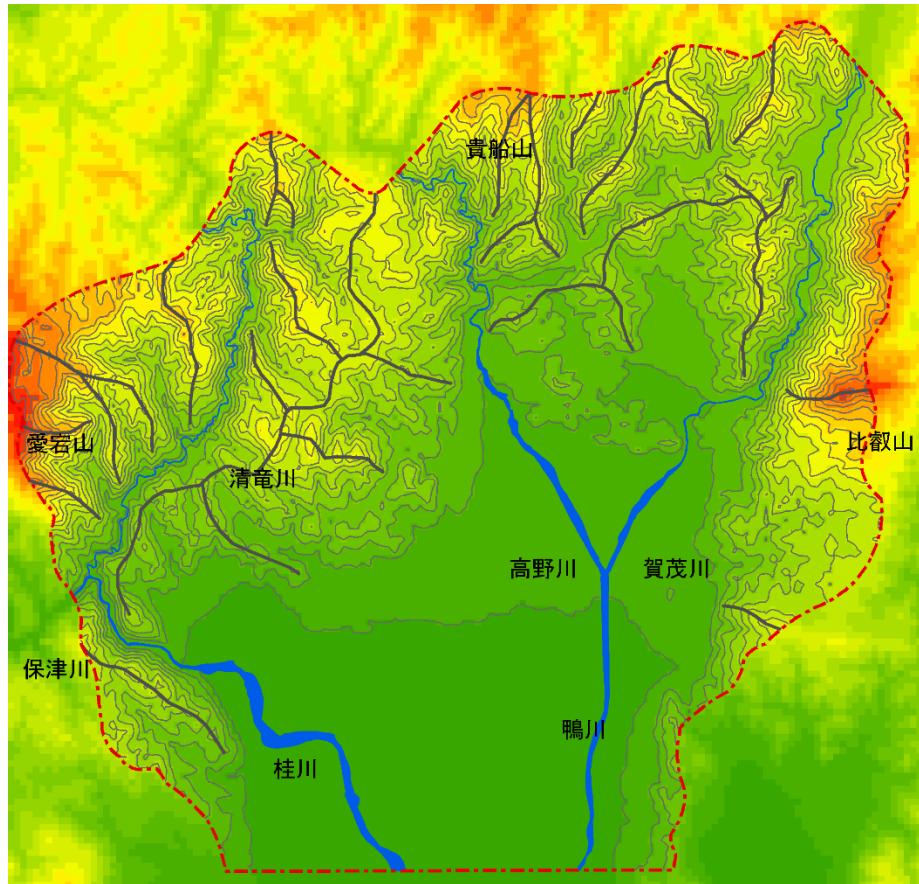
自然骨格図

■ 河川  
■ 尾根筋



傾斜度図

■ 0~5°  
■ 5~15°  
■ 15以上°



自然骨格図

■ 河川  
■ 尾根筋



傾斜度図

0~5°

5~15°

15以上°

地形分類

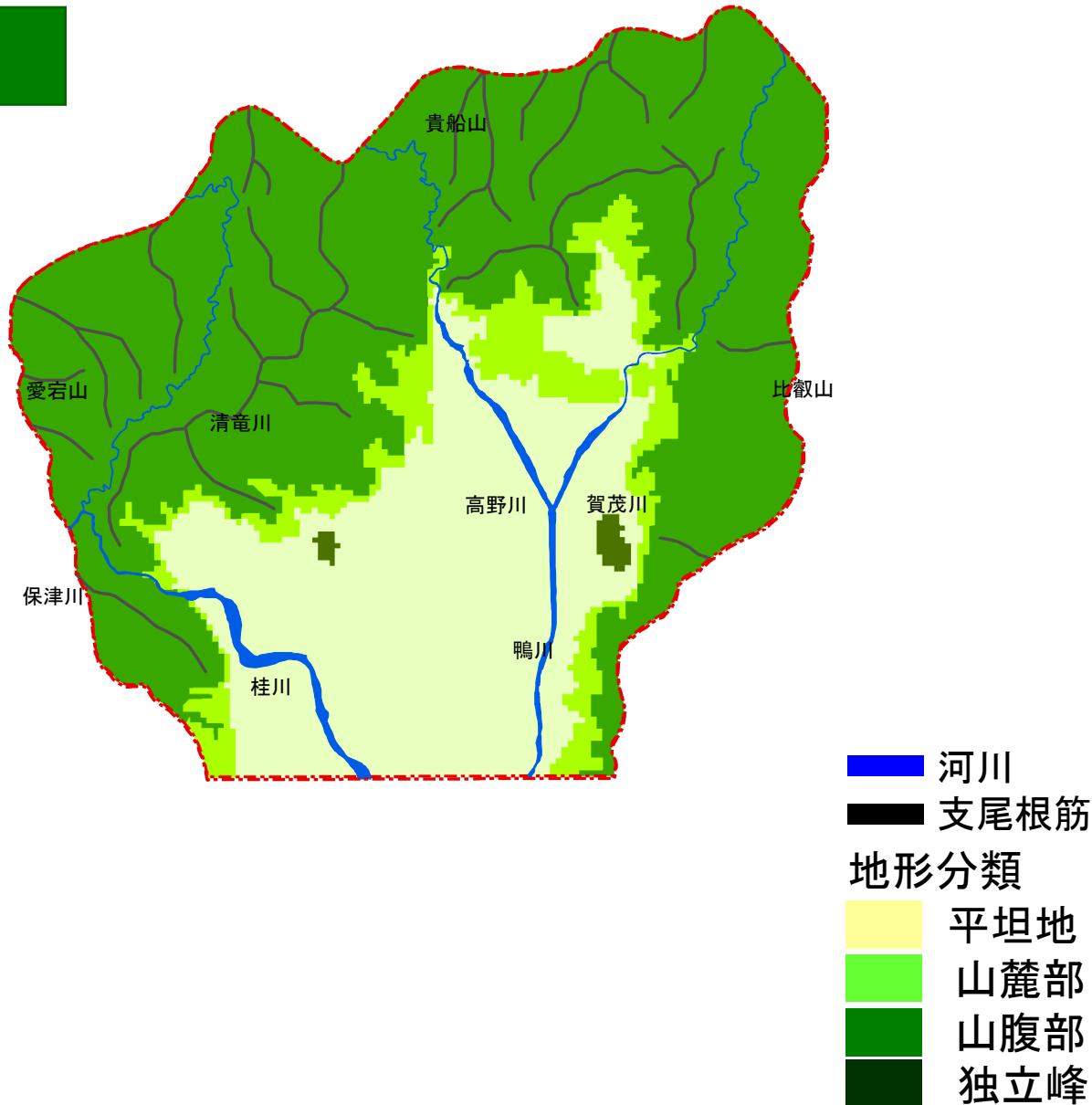
平坦地

山麓部

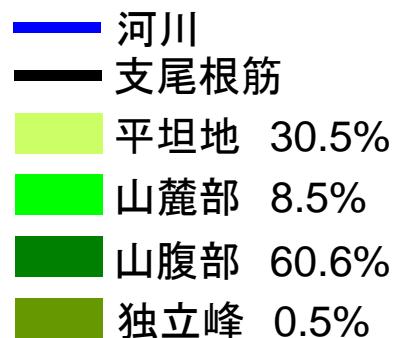
山腹部

独立峰

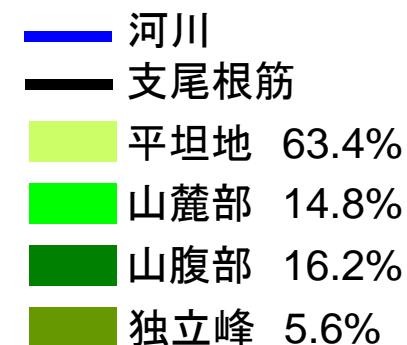
## 自然構造図



京都

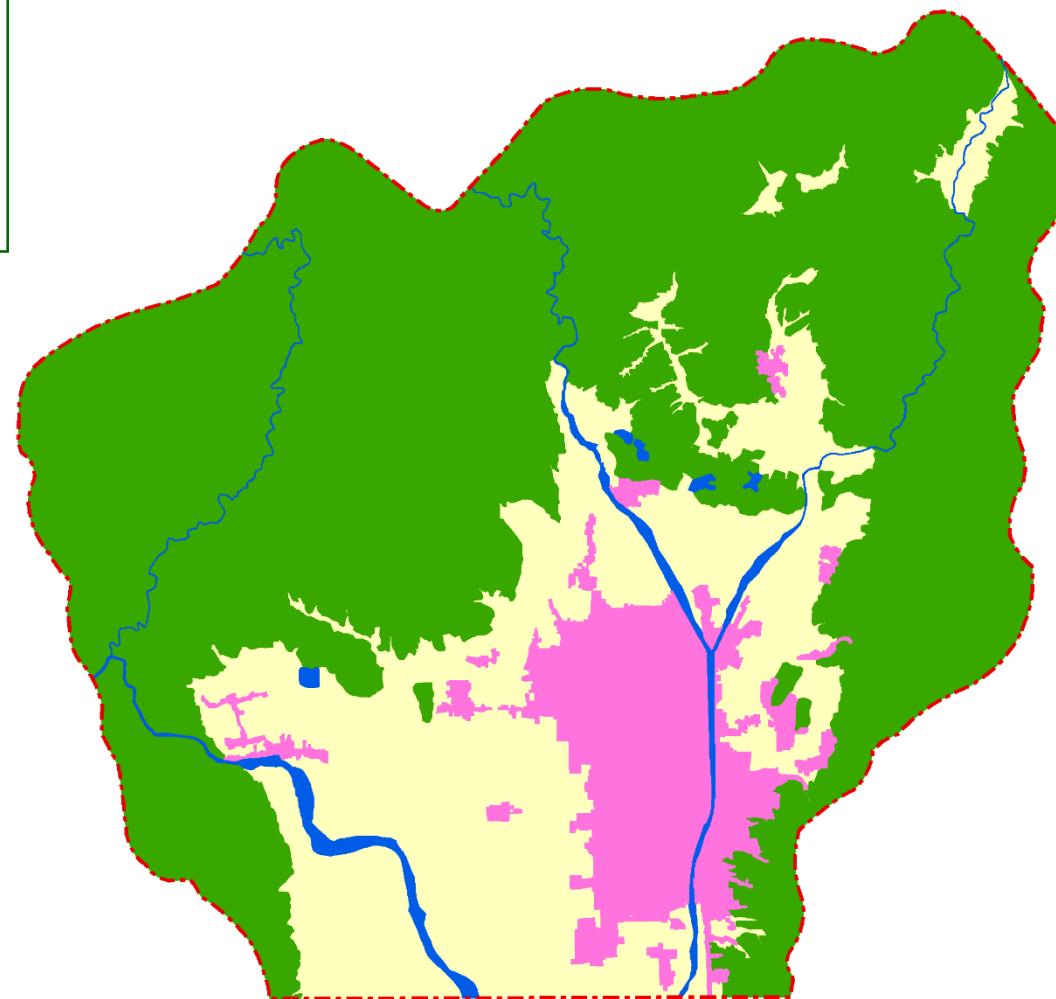


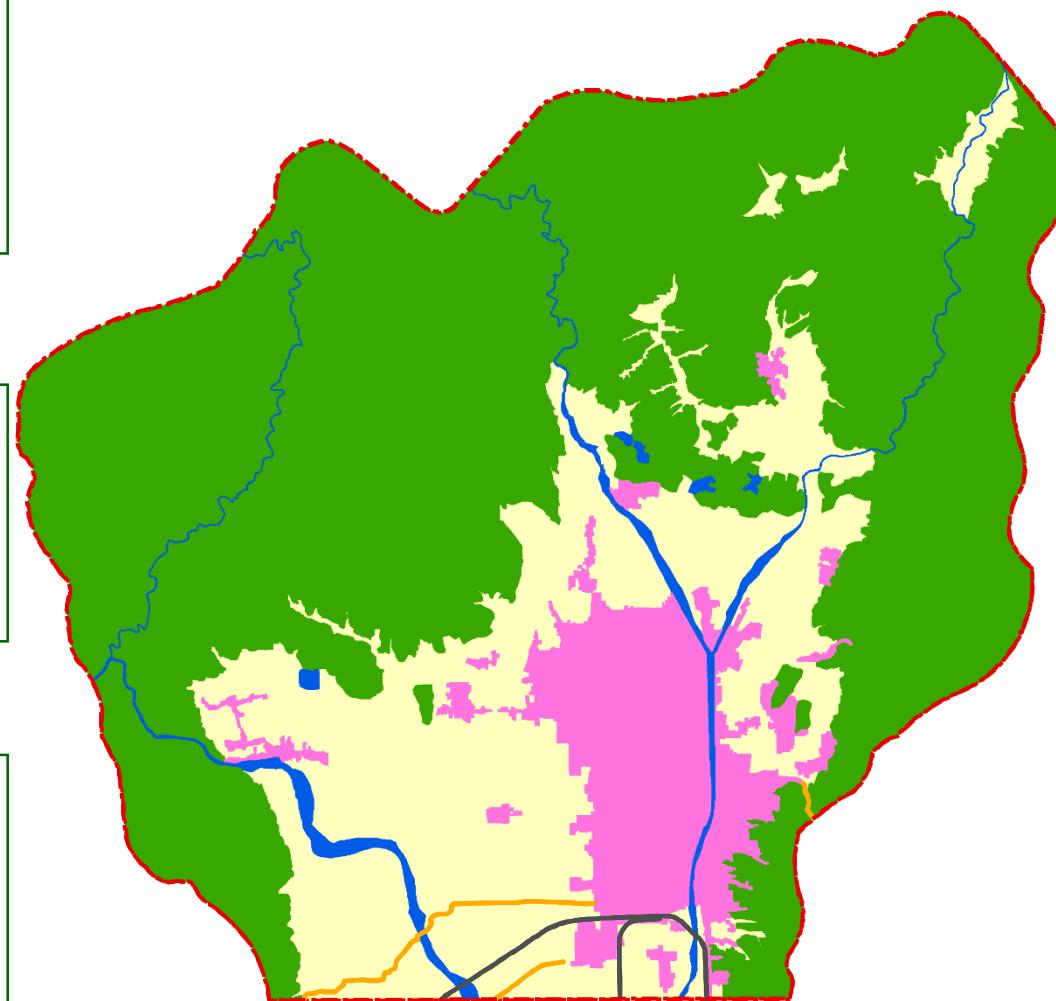
大邱



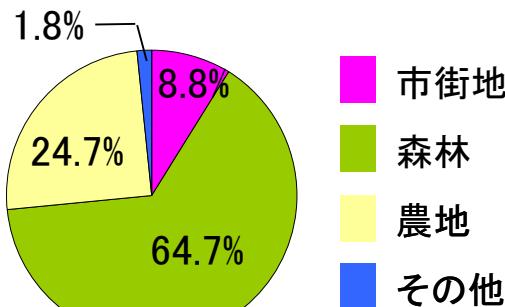
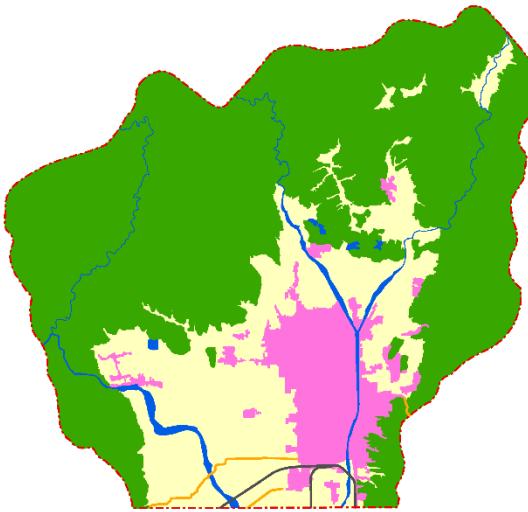
## 土地利用

■ 市街地  
■ 森林  
■ 農地

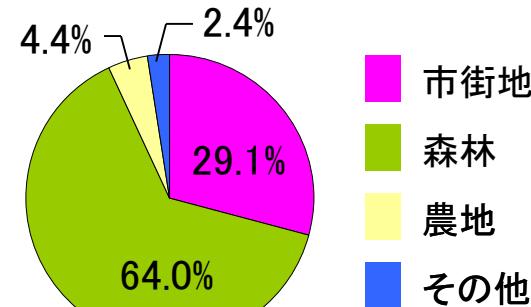
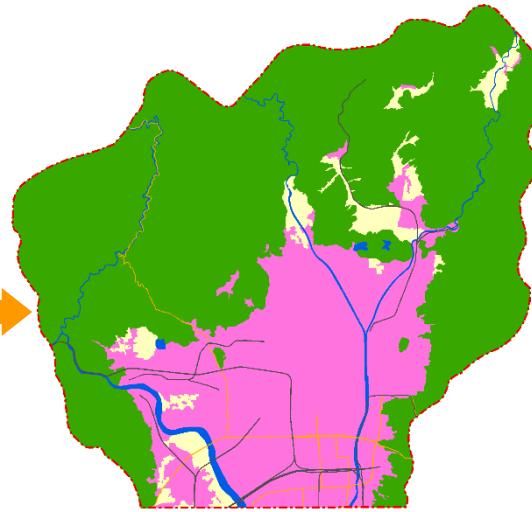




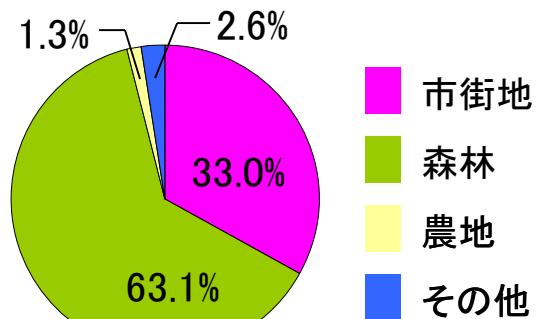
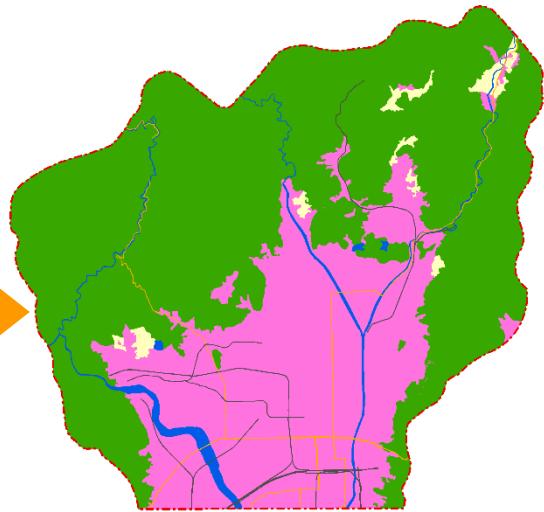
第1期(1900年)



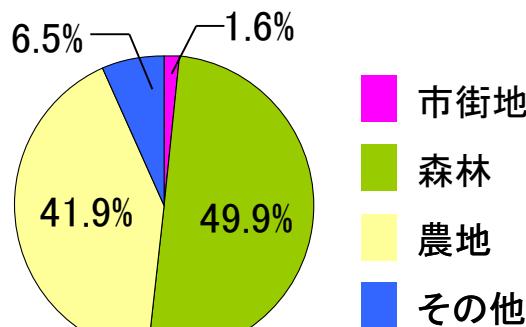
第2期(1970年)



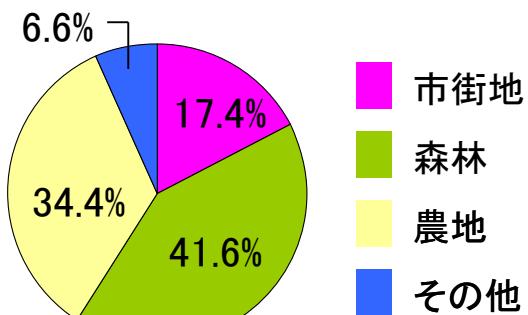
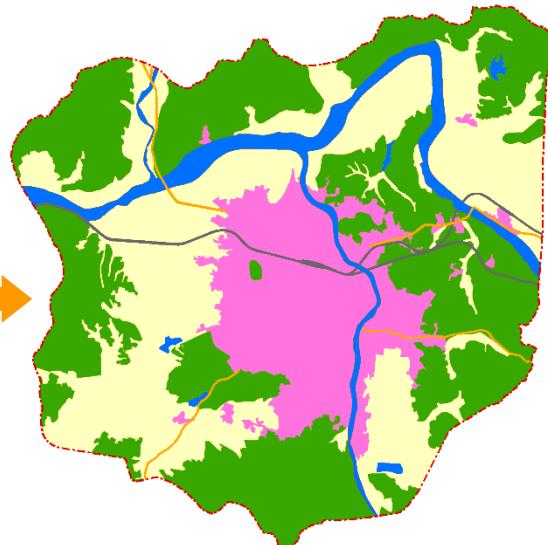
第3期(2000年)



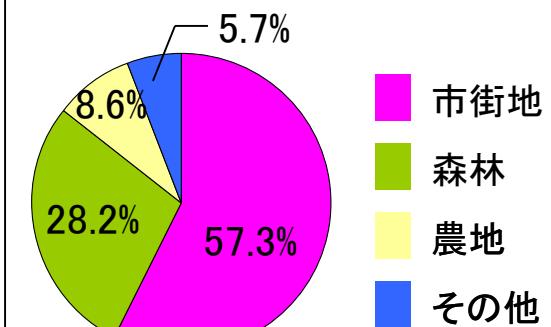
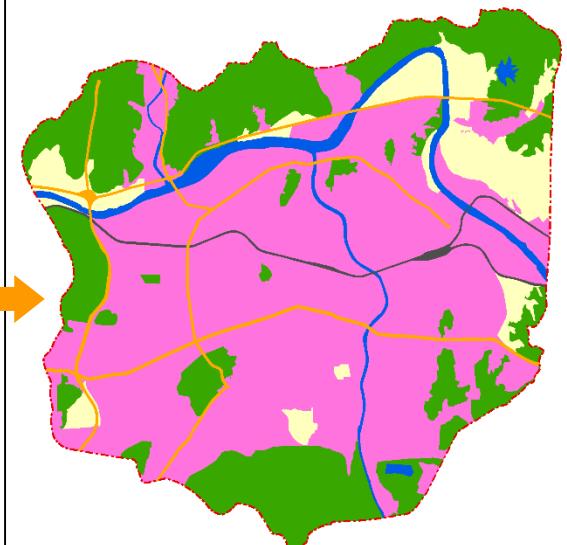
第1期(1900年)



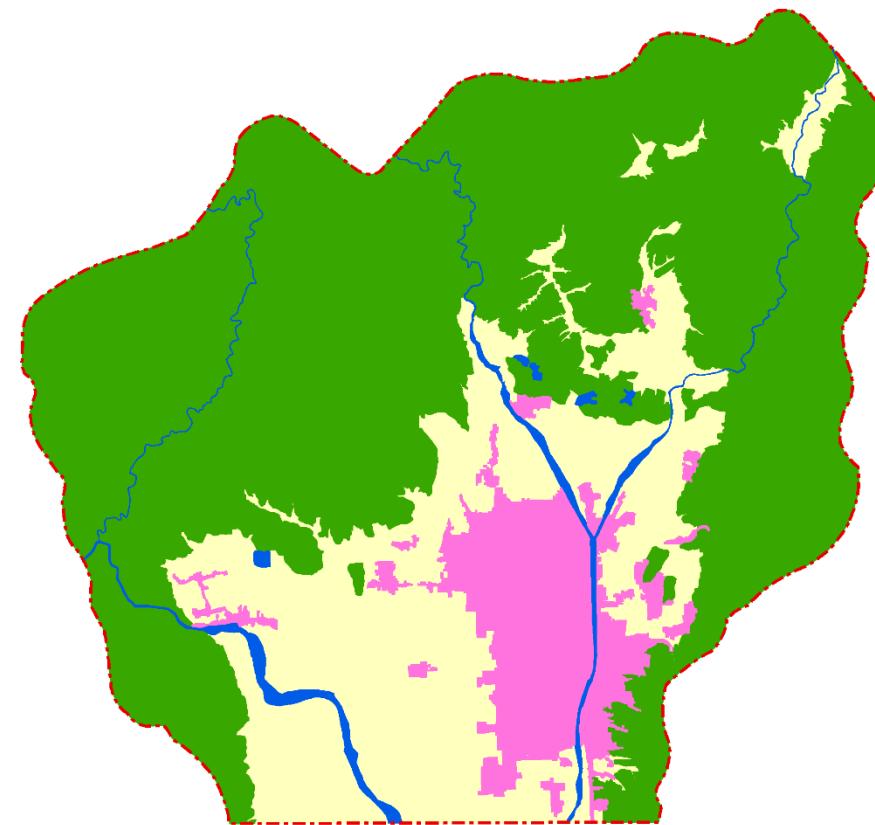
第2期(1970年)

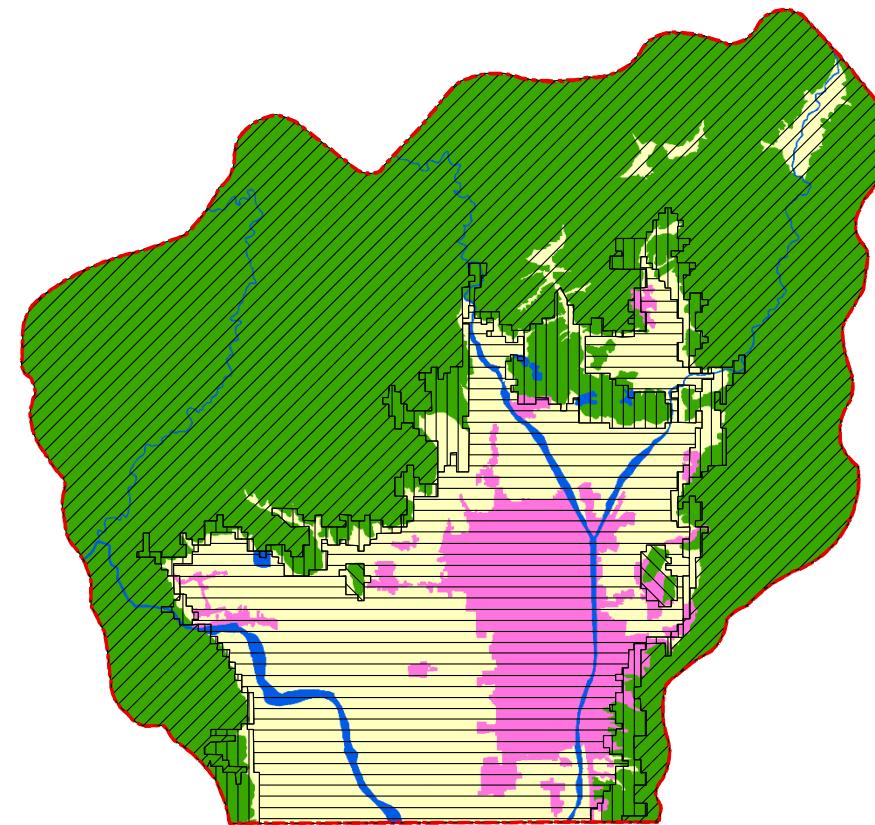
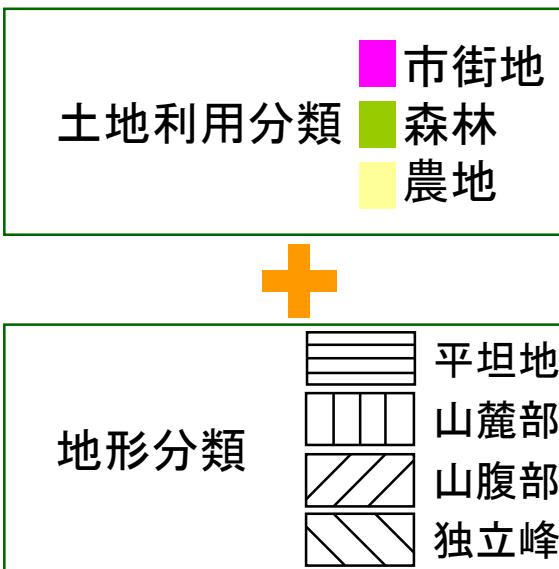


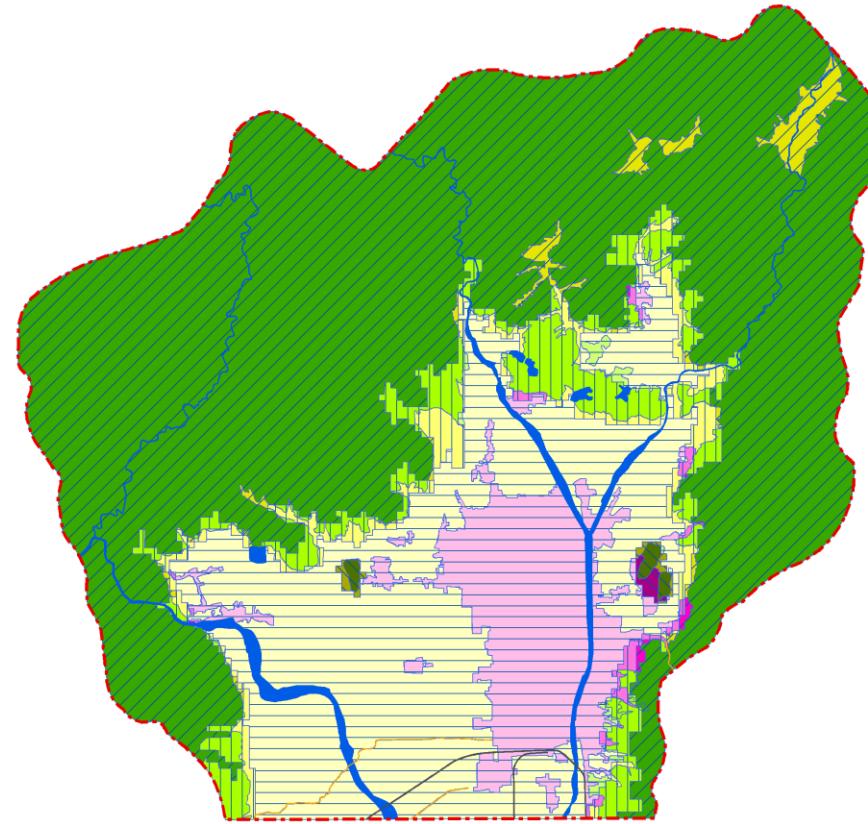
第3期(2000年)



土地利用分類
市街地
森林
農地

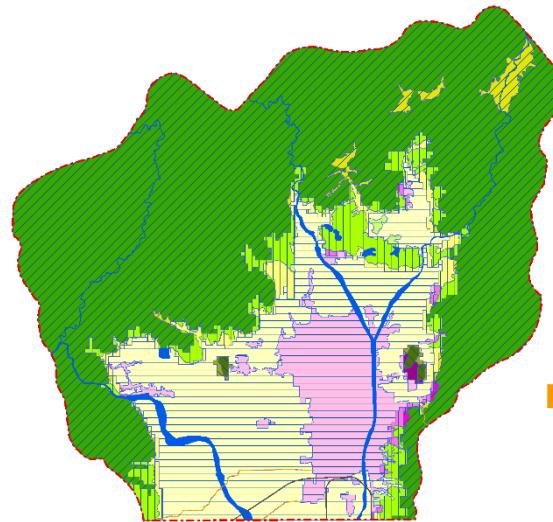




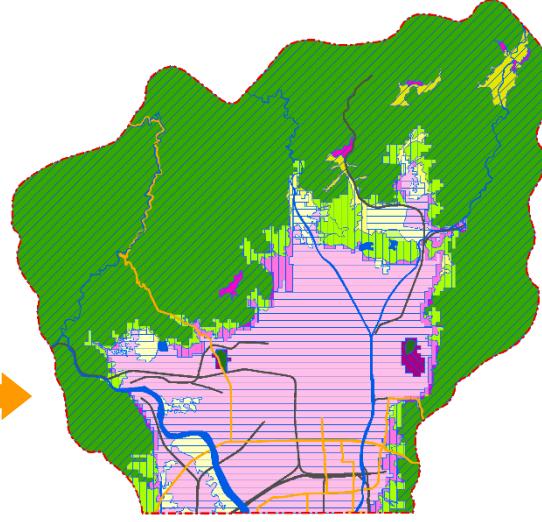


	平坦型=1	山麓型=2	山腹型=3	独立峰型=4
A型 市街地	A-1景観区 市街地-平坦型	A-2景観区 市街地-山麓型	A-3景観区 市街地-山腹型	A-4景観区 市街地-独立峰型
B型 森林	B-1景観区 森林-平坦型	B-2景観区 森林-山麓型	B-3景観区 森林-山腹型	B-4景観区 森林-独立峰型
C型 農地	C-1景観区 農地-平坦型	C-2景観区 農地-山麓型	C-3景観区 農地-山腹型	C-4景観区 農地-独立峰型

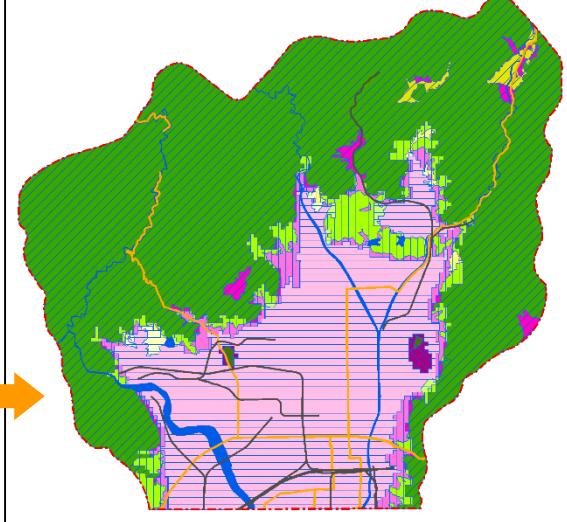
第1期(1900年)



第2期(1970年)

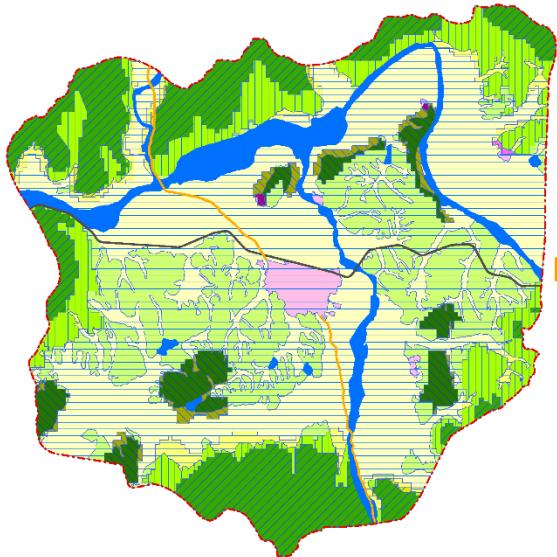


第3期(2000年)

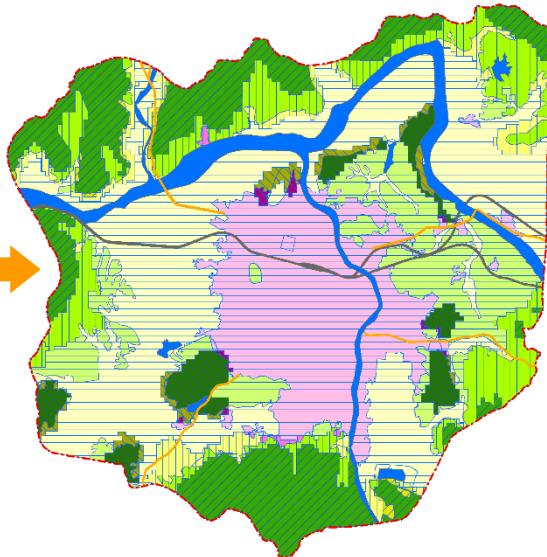


	A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	C-4
第1期	ha 2,067	106	24	29	85	1,336	14,893	58	5,201	673	358	33
	% 8.2	0.4	0.1	0.1	0.3	5.3	58.8	0.2	20.5	2.7	1.4	0.1
第2期	ha 6,542	610	135	86	69	1,290	14,819	32	654	200	273	0
	% 25.8	2.4	0.5	0.3	0.3	5.1	58.5	0.1	2.6	0.8	1.1	0
第3期	ha 7,059	889	326	92	69	1,145	14,733	26	85	73	170	0
	% 27.9	3.5	1.3	0.4	0.3	4.5	58.2	0.1	0.3	0.3	0.7	0

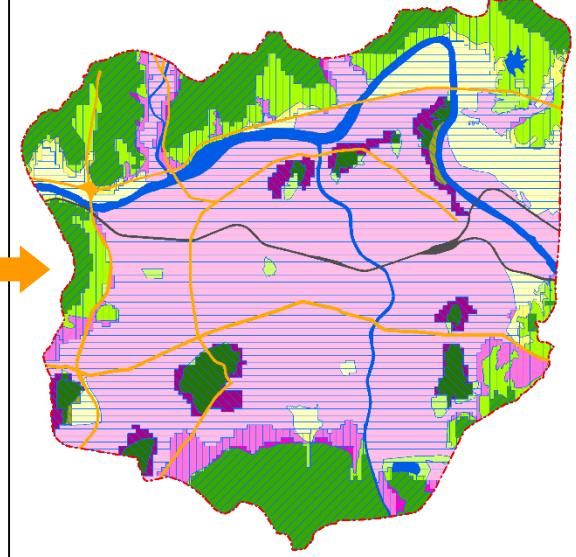
第1期(1900年)



第2期(1970年)



第3期(2000年)



## 第1期

◇共通性 市街地型景観区—農地型景観区—森林型景観区



盆地地形に典型的な景観構造

農地空間 ⇒ 引き空間となり、豊かな景観を形成している。

◇相違性

- ・京都: 森林—山腹型のB-3景観区の連続 ⇒ 山並みの連續性、景域の統一感
- ・大邱: 各種のB型景観区により領域感が形成 ⇒ 重畠景観が形成

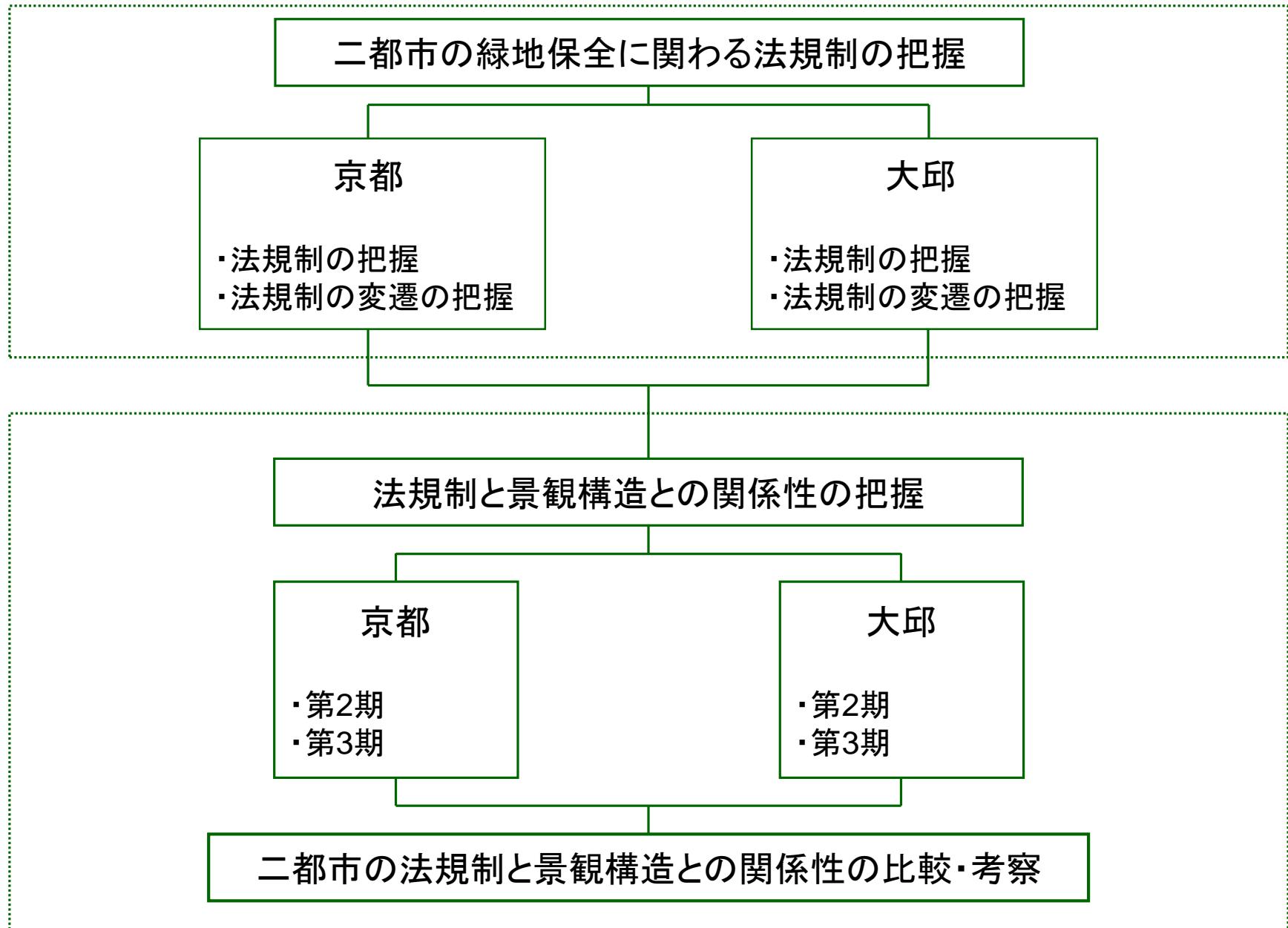
## 変遷過程

- ・京都: 第1期から第2期に激しい都市化  
⇒ 農地—平坦型のC-1景観区が市街地—平坦型のA-1景観区への転換
- ・大邱: 第1期から第2期 ⇒ 自然構造に従った都市化  
第2期から第3期 ⇒ 激しい都市化の進行により自然構造から逸脱

## 第3期

- ・京都: B-3景観区の維持 ⇒ 囲繞景観の継承  
C-1景観区がA-1景観区に転換 ⇒ 眺望景観の単純化
- ・大邱: B型景観区の減少及びC-1景観区のA-1景観区への転換  
⇒ 重畠性や眺望景観の多様性が消失するとともに領域感の弱体化

### 3章 緑地保全に関する法規制と景観構造との関係性との把握



## 二都市の緑地保全に関する法規制の比較

	日本			韓国	
1930年	風致地区	都市計画法			
1962年	歴史的風土 保存地区			緑地地域	都市計画法
				風致地区	
1966年	歴史的風土 保存地区	古都における歴史的風土保存に関する特別措置法			
1967年	近郊緑地 保全地区	近畿圏の保全区域の整備に関する法律		都市公園	公園法(現都市公園法)
1972年				開発制限区域	都市計画法
1981年	特別緑地 保全地区	都市緑地保全法(現都市緑地法)			
1995年	自然風景 保全地区	京都市自然風景保全条例			

## 二都市の景域における法規制より指定された区域

法規制	京都				大邱				
	第2期		第3期		法規制	第2期		第3期	
	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)		面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
風致地区	11,569	45.7%	12,989	51.3%	緑地地域	5,079	33.0%	6,237	40.5%
歴史的風土 保存地区	5,056	20.0%	6,371	25.2%	風致地区	203	1.3%	14	0.1%
近郊緑地 保全地区	519	2.0%	519	2.0%	都市公園	1,723	11.2%	2,053	13.3%
特別緑地 保全地区			12	0.1%	開発制限区域			2,891	18.8%
自然風景 保全地区			12,150	48.0%					

## 二都市の緑地保全に関する法規制の比較

	日本			韓国	
1930年	風致地区	都市計画法			
1962年	歴史的風土 保存地区			緑地地域	都市計画法
1966年				風致地区	
1967年	近郊緑地 保全地区	近畿圏の保全区域の整備に関する法律		都市公園	公園法(現都市公園法)
1972年				開発制限区域	都市計画法
1981年	特別緑地 保全地区	都市緑地保全法(現都市緑地法)			
1995年	自然風景 保全地区	京都市自然風景保全条例			

## 二都市の景域における法規制より指定された区域

法規制	京都				大邱				
	第2期		第3期		法規制	第2期		第3期	
	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)		面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
風致地区	11,569	45.7%	12,989	51.3%	緑地地域	5,079	33.0%	6,237	40.5%
歴史的風土 保存地区	5,056	20.0%	6,371	25.2%	風致地区	203	1.3%	14	0.1%
近郊緑地 保全地区	519	2.0%	519	2.0%	都市公園	1,723	11.2%	2,053	13.3%
特別緑地 保全地区			12	0.1%	開発制限区域			2,891	18.8%
自然風景 保全地区			12,150	48.0%					

## 二都市の緑地保全に関する法規制の比較

	日本			韓国	
1930年	風致地区	都市計画法			
1962年	歴史的風土 保存地区			緑地地域	都市計画法
1966年				風致地区	
1967年	近郊緑地 保全地区	近畿圏の保全区域の整備に関する法律		都市公園	公園法(現都市公園法)
1972年				開発制限区域	都市計画法
1981年	特別緑地 保全地区	都市緑地保全法(現都市緑地法)			
1995年	自然風景 保全地区	京都市自然風景保全条例			

## 二都市の景域における法規制より指定された区域

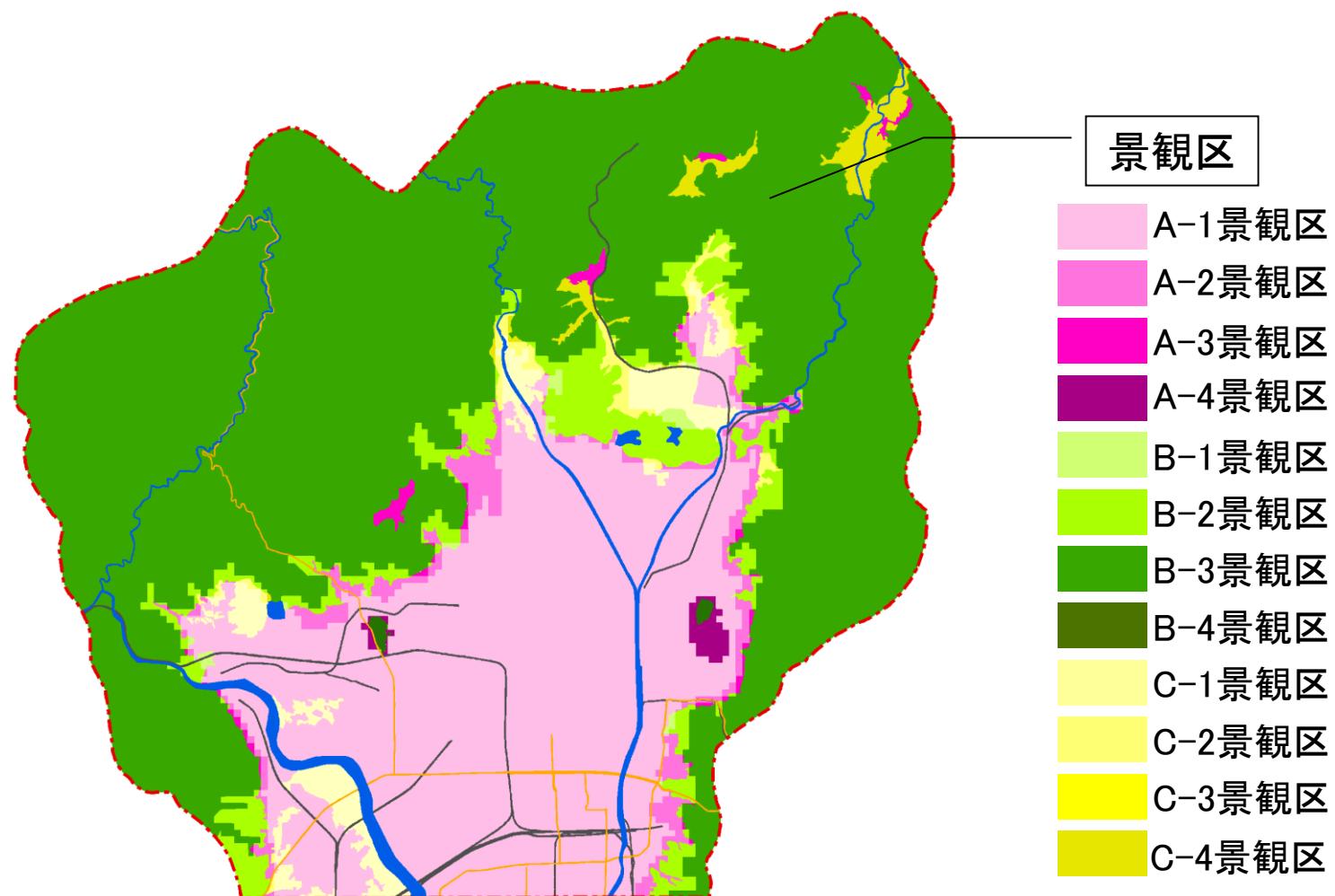
法規制	京都				大邱				
	第2期		第3期		法規制	第2期		第3期	
	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)		面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
風致地区	11,569	45.7%	12,989	51.3%	緑地地域	5,079	33.0%	6,237	40.5%
歴史的風土 保存地区	5,056	20.0%	6,371	25.2%	風致地区	203	1.3%	14	0.1%
近郊緑地 保全地区	519	2.0%	519	2.0%	都市公園	1,723	11.2%	2,053	13.3%
特別緑地 保全地区			12	0.1%	開発制限区域			2,891	18.8%
自然風景 保全地区			12,150	48.0%					

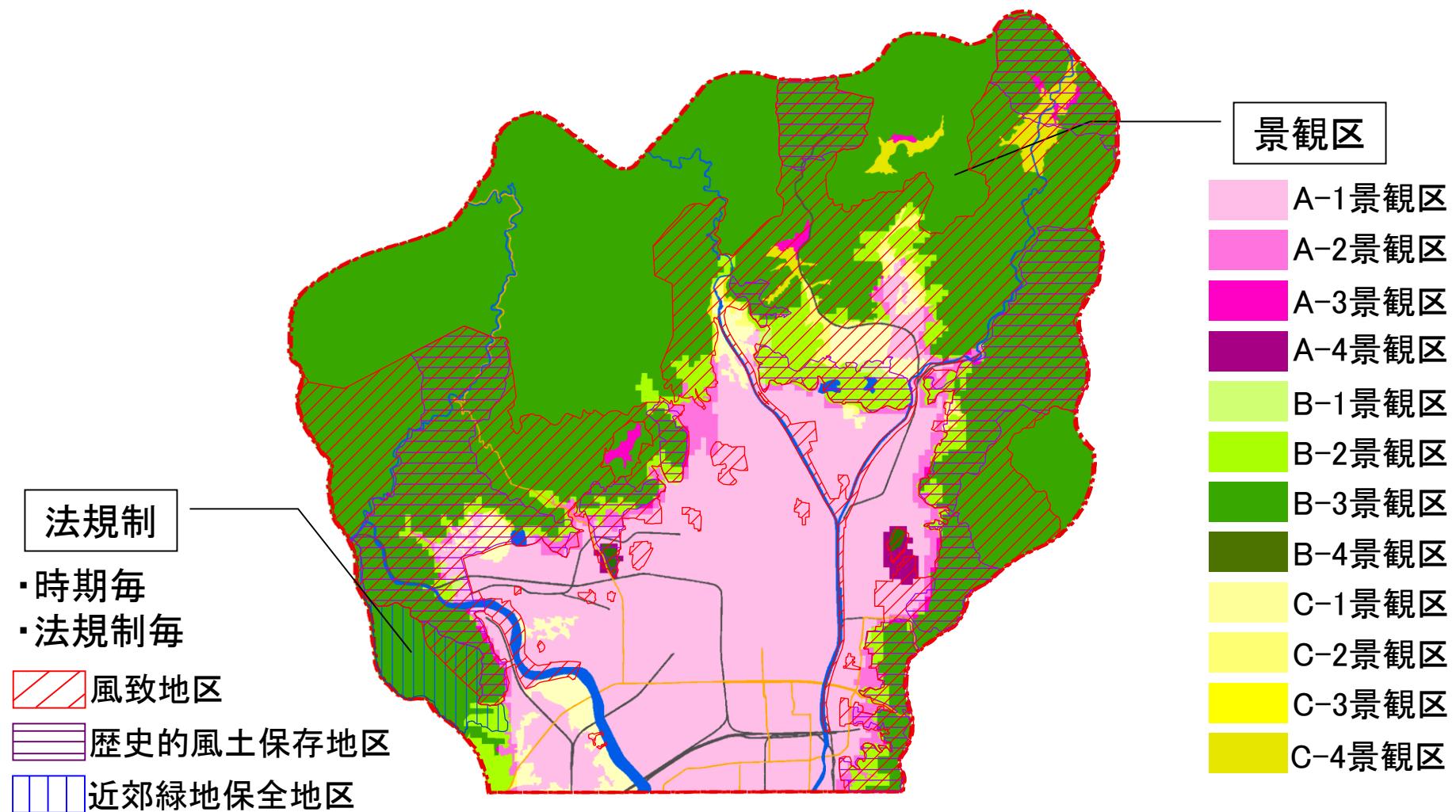
## 二都市の緑地保全に関する法規制の比較

	日本			韓国	
1930年	風致地区	都市計画法			
1962年	歴史的風土 保存地区			緑地地域	都市計画法
1966年				風致地区	
1967年	近郊緑地 保全地区	近畿圏の保全区域の整備に関する法律		都市公園	公園法(現都市公園法)
1972年				開発制限区域	都市計画法
1981年	特別緑地 保全地区	都市緑地保全法(現都市緑地法)			
1995年	自然風景 保全地区	京都市自然風景保全条例			

## 二都市の景域における法規制より指定された区域

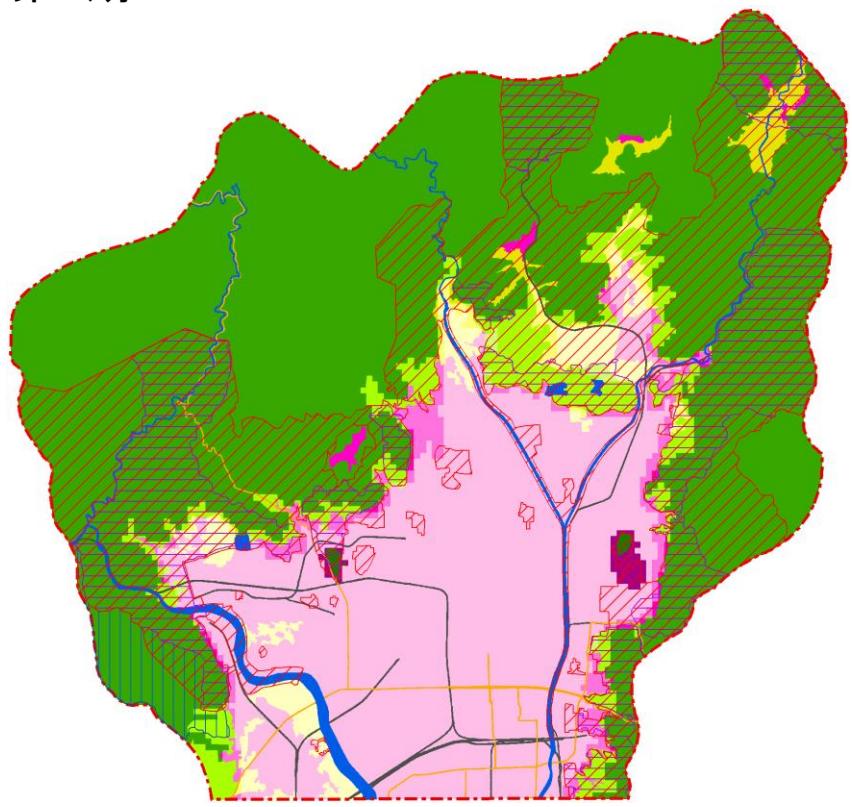
法規制	京都				大邱				
	第2期		第3期		法規制	第2期		第3期	
	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)		面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)
風致地区	11,569	45.7%	12,989	51.3%	緑地地域	5,079	33.0%	6,237	40.5%
歴史的風土 保存地区	5,056	20.0%	6,371	25.2%	風致地区	203	1.3%	14	0.1%
近郊緑地 保全地区	519	2.0%	519	2.0%	都市公園	1,723	11.2%	2,053	13.3%
特別緑地 保全地区			12	0.1%	開発制限区域			2,891	18.8%
自然風景 保全地区			12,150	48.0%					



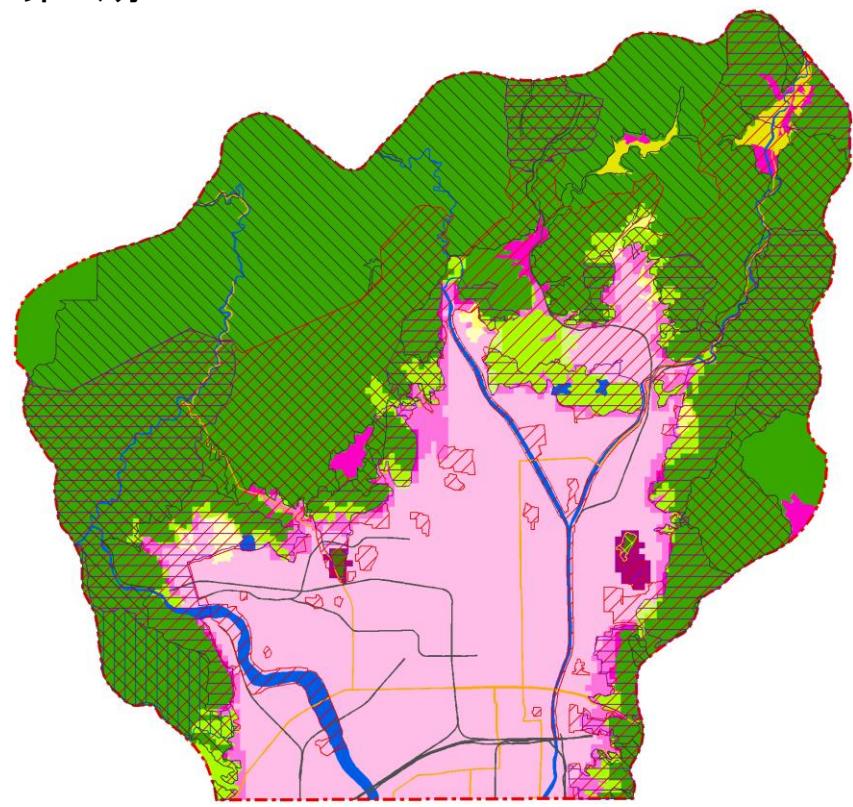


⇒ 景観区と法規制との関係性の把握

第2期



第3期



## 法規制



風致地区



歴史的風土保存地区



近郊緑地保全地区



特別緑地保全地区



自然風景保全地区

## 景観区

A-1景観区

B-1景観区

C-1景観区

A-2景観区

B-2景観区

C-2景観区

A-3景観区

B-3景観区

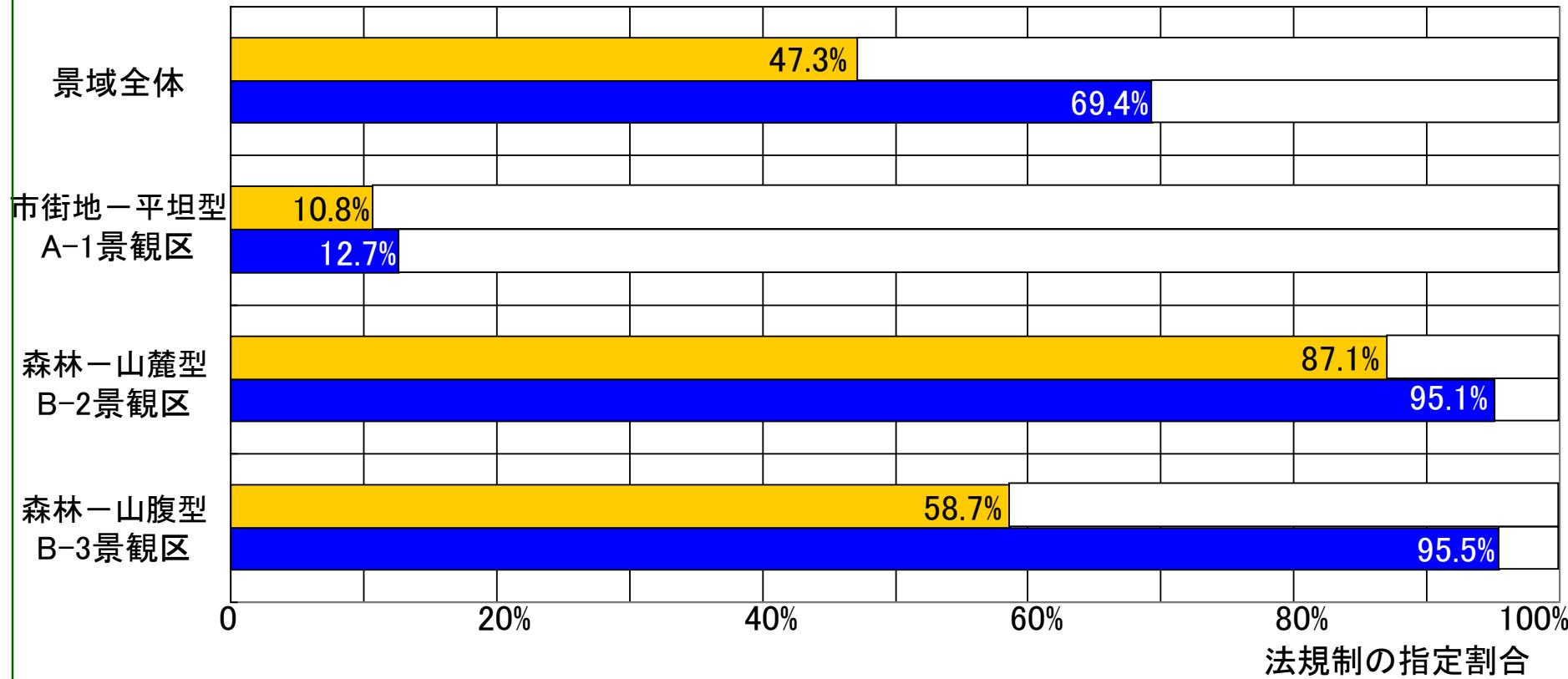
C-3景観区

A-4景観区

B-4景観区

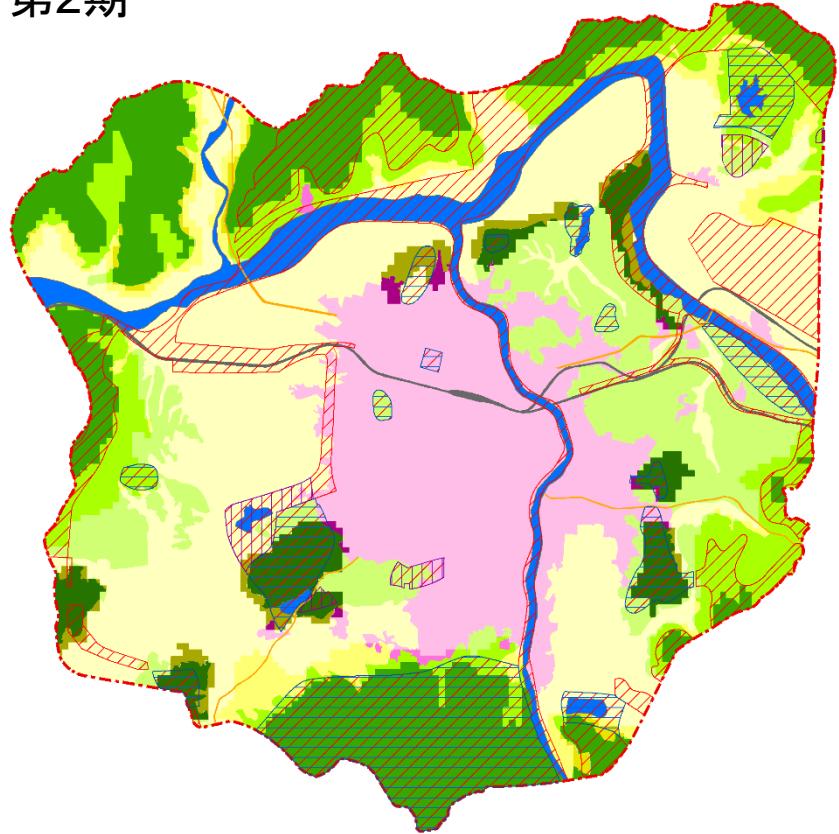
C-4景観区

## 各景観区における法規制の指定割合

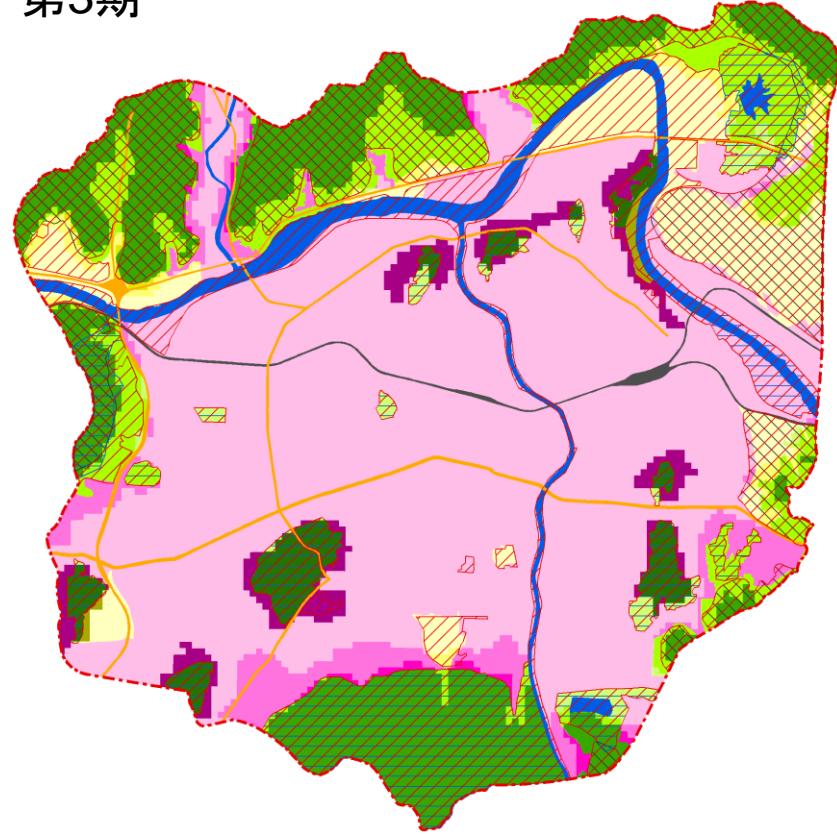


第2期	■ 規制区域	□ 規制区域以外
第3期	■ 規制区域	□ 規制区域以外

第2期



第3期



## 法規制

- 緑地地域
- 風致地区
- 都市公園
- 開発制限区域

## 景観区

- |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| A-1景観区 | A-2景観区 | A-3景観区 | A-4景観区 |
| B-1景観区 | B-2景観区 | B-3景観区 | B-4景観区 |
| C-1景観区 | C-2景観区 | C-3景観区 | C-4景観区 |

## 各景観区における法規制の指定割合

景域全体

33.0%

40.5%

森林－山麓型  
B-2景観区

49.8%

82.9%

森林－山腹型  
B-3景観区

71.1%

98.3%

森林－独立峰型  
B-4景観区

66.1%

99.3%

0

20%

40%

60%

80%

100%

法規制の指定割合

第2期	■	規制区域	□	規制区域以外
第3期	■	規制区域	□	規制区域以外

### 3章 法規制と景観構造との関係性の比較・考察

京都

	第2期		第3期	
指定区域	11,976ha(47.3%)		17,567ha(69.4%)	
主な景観区	指定区域の内	景観区の内	指定区域の内	景観区の内
森林－山麓型 B-2景観区	9.6%	87.1%	6.4%	95.1%
森林－山腹型 B-3景観区	74.5%	58.7%	82.1%	95.5%

- ・法規制により指定された保全区域の大幅拡大 ⇒ 景域の約7割をカバーしている。
- ・森林－山麓型のB-2景観区 ⇒ 古くから重視されてきた。
- ・森林－山腹型のB-3景観区 ⇒ 重要性が認識され出した。

### 3章 法規制と景観構造との関係性の比較・考察

大邱

指定区域	第2期		第3期	
	5,079ha(33.0%)		6.237ha(40.5%)	
主な景観区	指定区域の内	景観区の内	指定区域の内	景観区の内
森林－山麓型 B-2景観区	18.4%	49.8%	19.1%	82.9%
森林－山腹型 B-3景観区	39.5%	71.1%	41.5%	98.3%
森林－独立峰型 B-4景観区	9.0%	66.1%	7.5%	99.3%

- ・法規制により指定された保全区域の若干拡大 ⇒ 景域の約4割をカバーしている。
- ・森林－山腹型のB-3景観区及び森林－独立峰型のB-4景観区  
⇒古くから重視されてきた。
- ・森林型景観区の重要性が全般的に高まる。

## 4章 結論

### 京都

- ・山腹地形が優占 ⇒ 都市化が進行する以前に風致地区制度の導入  
⇒ 盆地地形の特性を支える3方面の山麓部の森林を保全してきた。
- ・都市圧の高まりとともに山腹部の森林保全に積極的に取り組まれている。  
⇒ 眺望景観や領域感の維持が図られている。

### 大邱

- ・平野が優占 ⇒ 都市化が進行する以前に法制度が導入されなかった。  
⇒ 景観上重要な役割を担っていた東西方面の平地林が大幅に失われ、市街地が優占する景観となった。
- ・その後、平野部を取り巻く独立峰、山麓・山腹部の森林保全が取り組まれ、東西方面の領域感は弱まったものの南北方面の領域感、重畠景観の維持が図られている。